

# 1. 開拓ゆかりコース

●男性◎27000歩 ●女性◎約33000歩

所要時間

19.4 km 4時間8分

奥入瀬川から稲生川への取水口、トンネル、サイフォン、水路橋などに見られる高い土木技術には先人たちの知恵が詰まっています。十和田の里山の豊かな自然を感じながら先人たちの歩いた道をたどってみませんか？

※山の景色を見ながら取水口へ向かう逆コースもおおすすめです。

開拓ゆかりコースのルート  
[スタート] 法量農村公園 | [ゴール] 太素塚・新渡戸記念館



稲生川(取水口付近) 海拔およそ100m

稲生川と国営水路の 高低差12m  
この2本の水路の高低差によって三本木原台地全体に水が行きわたる仕組みになっています。京ノ館の合流工は、その差がよく分かる見学ポイントです。

稲生川(稲生橋付近) 海拔およそ70m

奥入瀬川(御幸橋付近) 海拔およそ35m

市街図の詳細は 下の「4. まちなか歴史コース」を参照ください。

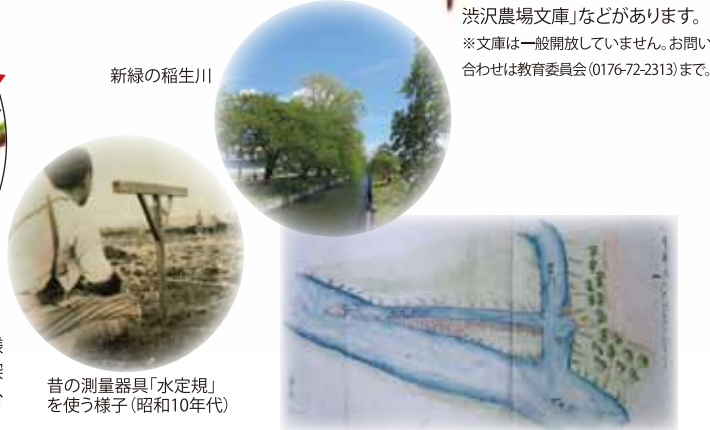


澁沢農場記念碑付近  
明治23年(1890年)実業界の父・澁沢栄一が開拓地救済のため開設した「澁沢農場」の記念碑と関連資料を納める「三本木原開拓 澁沢農場文庫」などがあります。  
※文庫は一般開放していません。お問い合わせは教育委員会(0176-72-2313)まで。

稲生川取水口  
広大な荒野を緑に変えた稲生川のスタート地点。天狗山トンネル入口上から全体を一望すると、先人の技術と長い苦闘の歴史を感じます。

幕末に掘削された稲生川と昭和の国営水路が、自然河川・熊ノ沢川と交差する地点。水路橋、サイフォン、トンネルなど様々な土木技術を間近で見学することができます。

国営水路が滝のように流れるポイント  
国営水路と稲生川の高低差のため滝の様に合流する部分が見え。三本木原台地を深く流れるように流れる稲生川を見ると、高台に水を上げるこの大変さを実感できます。



取水口絵図▲大石を並べて奥入瀬川から稲生川に導水した昔の様子が分かります。(十和田市立新渡戸記念館 蔵)

稲生川頭首工と熊ノ沢サイフォン付近の詳細は裏の「2.先人の技術みどころコース」を参照下さい